

## 危険な信号機交差点の解消

笹井 重俊（日本共産党）

**質問** 市内の交差点、信号機において、交通実情に対応できていない場所が見受けられるが、どのように対応するのか。

**答弁** 相生町一丁目十四番地付近の交差点については、通常の信号機に変更する趣旨を桐生警察署に伝えたい。また、新宿三丁目県道桐生新田木崎線と新宿通り交差点については、二つの交差点が接近し過ぎていたので信号機の設置は難しい。

（相生町一丁目の交差点）



く、車両停止禁止ゾーンの路面表示の補修や注意喚起の看板の設置を土木事務所や地元町会と協議し、検討していきたい。

## 黒保根選挙区当選議員

七月二十二日の市議会議員補欠選挙（黒保根選挙区）で当選した議員は、次のとおりです。



新井 達夫  
（愛・桐生）

**常任委員会**

産業経済委員会

**特別委員会**

交通対策調査特別委員会

## 平成18年度

# 決算を認定

平成18年度桐生市歳入歳出決算及び桐生市水道事業会計決算は、それぞれ賛成多数で認定しました。

同決算の認定にあたっては、監査委員による監査報告の後、各会派代表の議員（5人）が総括質疑を行うとともに、決算特別委員会（委員16人で構成）を設置し、2日間にわたり、慎重に審査を行いました。

総括質疑における、主な質疑に対する市当局の答弁は、次のとおりです。

### 合併の効果と現状の問題点は

合併の効果は、利用できる公共施設の増加、工業適地選定や定住促進施策など多様な施策が可能になるなどのスケールメリットによる効果が挙げられる。問題点については、一般的に規模が大きくなるときめ細かな行政サービスができなくなるなどといわれているが、特にそのような話しは聞いていない。なお、飛び地の

解消の取り組みについては、七月に広域調整室を設置し、みどり市と協調して行政事務現況調査を行っている。

### 経常収支比率については

経常収支比率は、市税など毎年経常的に収入があり自由に使える財源が、人件費や扶助費など経常的に支出される費用に充当される割合を見る指標で、財政構造の弾力性を判断する指標となっており、八十八パー

### ごみ減量対策については

桐生市のごみの減量化施策への取り組みは、「桐生市ごみ減量化推進協議会」を中心に、官民一体となった運動を展開しており、生

ごみ処理容器の購入補助のほか、買い物袋持参運動の推進、再生资源集団回収事業の推進などを行っている。特に、平成十八年度の集団回収事業については、登録団体数百六十三団体で、実施回数七百八十六回、総回収量二千五百六十三トンに上り、ごみの減量とリサイクルに貢献しており、登録団体数、実施回数、総回収量とも増加傾向にある。

### 障害者福祉については

障害者自立支援法は、平成十八年四月から一部施行、十月からの全面施行となり、原則一割負担導入に伴う利用者負担の増加などから不安の声が上がり、桐生市でも説明会を開催して円滑な施行に努めてきた。特に地域生活支援事業においては、負担をより少なくするため移動支援や日中一時支援においては積極的な給付に心掛け、相談支援やコミュニケーション支援についても福祉サービスを利用するための基盤づくりと捉え、整備を進めてきた。今後、利用しやすいサービス提供に努めていきたい。

## ジョブカフェについて

平成十六年から始まった群馬県若者就職センター事業、通称「ジョブカフェ」は、開設以来予想を上回る高い利用率を集めており、平成十八年度の来所者七千二百七十一人、就職紹介千七十六件、就職者数五百四十四人となっている。特に平成十九年度からは、事業主体が国から群馬県に移管され、今後の自立化に向けて地元企業などを積極的に参入させる方式が取られており、桐生市においても地元産業界との関わりの強い北関東産官学研究会が県と連携し、ジョブカフェ事業



ジョブカフェぐんま

の一端を担っており、側面から支援していきたい。

## 林業の振興策については

桐生市の林業経営の現状は、木材価格の低迷や林業従事者の減少など課題が多く、群馬県や森林組合などの関係機関と連携した生産コストの低減化支援を継続的に行っている。また、林業従事者の確保と継続雇用のための福利厚生支援や林業整備活動支援交付金制度による支援なども行っている。その他、平成十九年度から三世代で居住するための木造住宅を建設する人を対象に桐生の木家づくり助成制度を始め、更なる林業振興に努めている。

## 普通教室扇風機設置事業については

児童・生徒の健康管理、学習環境の向上を図るため小・中学校の普通教室に各三台、幼稚園保育室に各二台、商業高校の普通教室に各四台の設置を平成十六年度から計画的に取り組んでおり、平成十九年六月に商業高校の普通教室への設置

により、本事業は完了した。扇風機設置効果は好評を博しており、学習環境の向上に大きな効果があったと考えている。

## 水道再生マスタープランについては

平成十七年度、平成十八年度の二年間で作成した水道再生マスタープランの計



元宿浄水場

画内容は、「おいしい」「活力」「安全」の実現を目指し、元宿浄水場の早急に対策が必要な機械設備の更新などの五年後を目標にした短期計画、桐生川水源施設の整備計画の十年後を目標にした中期計画、集中監視システム構築の整備を計画するなどの二十年後を目標にした長期計画の三段階で計画を作成したものであり、これからの水道事業の指針となる計画である。

## 新里町の道路整備事業については

主要地方道前橋大間々桐生線と、県立ぐんま昆虫の森への南側からの入り口となる道路が交差する新川交差点改良工事については、



新川交差点

交差点部道路幅員が十二・七五メートル、一般部幅員が九・七五メートル、改良延長二百三十八メートルの路線であり、平成十八年度は用地買収及び工事が実施され、進捗率は事業費ベースで約六十五パーセントであり、平成二十年年度完成に向けて努力している。また、桐生広域と前橋広域を結ぶ南部幹線道路新設工事

## 人事案件

市議会は、次の人事案件二件に同意しました。

### 副市長

八木 計二氏  
(新任)

### 教育委員会委員

東郷 直子氏  
(新任)

は、総延長四千八百六十一メートルの路線であり、平成十八年度に測量調査設計を行い、進捗率は事業費ベースで約三・七パーセントとなっている。

## 賛成討論

平成十八年度決算は厳しい財政状況の中、実質収支比率、財政力指数、実質公債費比率など改善の方向であるが、財政力の弾力性を判断する経常収支比率が101.5%となったことは残念である。優良企業や若年層の市外転出が続き、高齢化と少子化が進む桐生市にとって税収減という厳しい状況からの脱却のため、平成十七年度から行革方針を打ち出し、職員削減など少数精鋭の組織への転換に取り組み、黒保根町の高齢者生活支援施設建設事業、消防車両更新事業、中通り大橋線事業、上毛線新駅整備事業、耐震診断設計及び補強工事の実施、水道事業における純利益の増加など市民生活の安定と福祉の増進などの諸事業に取り組む姿勢は評価できる。よって、賛成である。

## 反対討論

平成十八年度は、合併後最初の統一した予算が組まれて執行された1年間であり、この合併は新市建設計画に示された財政計画が矛盾を抱え、まともに説明ができないまま出発したものである。経常収支比率101.5%は、こうした財政計画のまま合併した結果である。

三位一体改革や1市2村による合併によって出てきた財政矛盾を解決するために、行革によって市民へのサービス削減と負担増を進め、くらしや福祉、教育の施策を大きく後退させ、構造改革の名の下に、国が進めた税制改悪や社会保障制度改悪をほぼそのまま市民に押し付け、市民生活を支援しようとする姿勢がほとんど見られないなど多くの問題があり、賛成できない。